

令和7年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	地域コミュニティの核である小学校との連携
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流推進事業	①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・農事組合田鶴ファームおよびJAにしみの経済営農センターの協力を得、地区社協の地区社協の特徴を合わせた支援を行い、「米生産」の1年間の体験学習を行い、児童に地域とのつながりを感じてもらう。	○
	②さつま芋作り体験活動（石津小学校、認定こども園に協力） ・田鶴地区の農業ボランティアの指導を得て、地区社協の有志、他地区の協力も得ながら焼芋パーティーを広域連携で開催をする。	○
	③福祉標語の募集 ・石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・全員に参加賞を贈呈し、優秀作品（12点）を表彰し、石津地区社協だよりに掲載する。	○

現状及び今後の方針
・計画通りに実施ができた ・ボランティアの高齢化のため、活動に協力してくれる人を募る。

重点課題	地区社協の活動を広く周知する
------	----------------

事業名	推進方法	評価
「地区社協だより」の発行	（会議） ・総務部会の打合せにSNSなどを駆使し、効率化を図る ・運営委員会を年6回、理事会を年2回、理事会を年1回以上開催	○
	（基盤強化） ・事務所の整備、管理、保有車両やPCなど機材の維持、保全 ・次世代との交流の輪を広め、基盤強化を図る	△
	（情報発信等） ・編集会議を開催し、年6回「石津地区だより」を発行する ・地区社協設立15周年の記念事業などを企画する	○

現状及び今後の方針
・2ヶ月に1回、「石津地区社協だより」を発行。自治会に回覧するほか、コンビニに設置し幅広く周知した。 ・石津地区社協設立15周年を記念し、「石津地区社協だより」の特別号を全戸配布したところ、毎号見たいと希望があったため、市社協のHPに掲載をする ・地区社協の活動を周知するとともに、読みやすく、見やすい紙面とし、活動を報告していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	高齢者の移動手段の確保
------	-------------

事業名	推進方法	評価
高齢者移動サービス	・ボランティア（運転、予約受付配車）の恒常的な発掘 ・デマンド交通網とのマッチングで地域住民のニーズに対応 ・ボランティア（運転、受付）間で利用者情報を共有し、「見守りネットワークに情報提供をする体制の構築	○

現状及び今後の方針		
・地域の高齢化が進み、今後ますます重要となる事業である。 ・ボランティアの高齢化が進み体調不良となり、ボランティアの確保が課題である。 ・関係団体と連携及び個人折衝でボランティアの確保に努める。 ・利用者の高齢化による課題が顕在化しているため、区長、自治会長、民生委員児童委員と連携し、利用者の状況を注視する必要がある。 ・受付ボランティアと運転ボランティアの連携、情報共有。 ・サービス利用者の個別の課題について役員間で共有し、対策を講ずる。		

重点課題	高齢者の憩いの場の提供
------	-------------

事業名	推進方法	評価
石津地区サロン運営事業	・毎月第4金曜日に定期開催。 ・参加者増員に向け、「地区社協だより」、関係団体、個別連絡など幅広い周知。 ・併設する「朝市」の出品内容に充実し、参加者の増員を図る ・石津地区内でサロン事業未実施の区、自治会にサロン実施への支援を行う ・サロンに合わせて、野菜や果物などの朝市に開催し、参加者の増員を図る	○

現状及び今後の方針		
・毎月定期開催の周知のため、「地区社協だより」によるPRの継続。 ・朝市の内容充実のため、役員だけでなく地域の人に幅広く声掛けを行う。 ・コロナ禍前と比較すると参加者が減ってはいるが、毎回60名が参加している。 ・石津地区内で新たなサロンの立ち上げはなかったが、地区内の多くの人にサロンの良さを知ってもらうことができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	子どもからお年寄りまで安心・安全暮らせる地域づくり
------	---------------------------

事業名	推進方法	評価
①スクールボランティア	・石津小学校と連携し、登下校時の見守りを継続する。 ・ボランティア間の情報共有を図り、区・自治会と連携し、人材確保に努める。	△
②防犯パトロール、青色パトロール	・青色防犯パトロールの実施により、安全対策を行っている地域であることのアピールをする。 ・高齢者などの行方不明者の捜索やごみの不法投棄のパトロールなど、行政や警察との協力関係を継続。 ・ボランティアの協力者の確保に努め、パトロールの回数を維持する。	○
③防災	・防災士会や行政機関と連携し、学習会や講演会を計画する。 ・区、自治会と密に連携し、事業を行う。 ・地区社協運営委員会での情報共有を図る	○

現状及び今後の方針
①スクールボランティア ・学校、保護者と連携し、登下校時の見守りを継続。 ・小学校発行の「みかんの里」をボランティアへ配布し、学校との連携、情報共有。 ・区、自治会と連携し、新しい人材確保。 ・気温30度を超える日を中心とした下校の支援。 ②防犯パトロール、青色防犯パトロール ・ボランティアの確保に努め、パトロールの回数を維持する。 ・行方不明者の捜索、ごみの不法投棄の発見の協力の継続。 ・小学校や警察の事業に積極的に参加し、連携および情報共有に努める。 ③防災 ・今後も防災士会、日本赤十字奉仕団、消防団、区、自治会や行政と連携し、防災に関する情報を発信していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった